

理系女性の キャリア インタビュー

若手でも未来の技術発展につながる 提案ができる、自由闊達な風土

世界約200の国と地域に展開するグローバル企業、リコー。デジタル複合機やプリンター、プロジェクター、ITソリューションに至るまで幅広い事業を展開しています。また、技術への投資は惜しまず国内屈指の研究開発投資を行い、競争力の高い製品を世の中に発信し続けています。

今回登場いただく伊藤さんは、プリンターの心臓部である「作像エンジン」の設計開発に携わっています。社歴や役職に関わらず発言しやすい風土の中、伊藤さんが仕事を通して得られたやりがいや学び、そして女性が活躍できる環境についてお話を聞きました。

リコーを就職先に選択した理由を教えてください。

就職活動中は幅広い業界を見てきましたが、最終的にはメーカーで日本のモノづくりを支えたいと考えました。様々な産業で海外企業の勢いが増している中、グローバル市場で日本メーカーが圧倒的に強い分野のひとつがプリンター業界だと知り、興味を抱いたのです。さらに技術者として働くのなら、役割が細分化され一部しか見ることができない分野よりも、企画・設計開発した製品が市場に出るまで全体を一貫して見渡せる分野を選ぼうと思っていました。調べてみてそれができそうだと感じたのもプリンター業界です。中でもリコーは研究所を訪問した際、誰もが嬉しそうに技術のことを話す姿が印象的でした。

現在は印刷会社などで商業印刷を中心に使われるプリンターの「作像エンジン」の設計開発に携わっ

ています。作像エンジンは製品全体の性能を左右する心臓であり頭脳。様々な技術が結集しており、市場のニーズをしっかりと反映していく必要があります。開発を進める上ではサービス部門や国内・海外マーケティング部門、機械、化学、システムなど幅広い部門と関わります。まさに全体を見渡すことができる仕事ですね。

これまで特に印象に残っている仕事のエピソードを聞かせてください。

入社3年目に自主的に発案した、基幹部品の改善提案が印象に残っています。当時は紙の着色に使う「トナー」周りの部品の開発に携わっていたのですが、進めていくうちに製品の性能に影響する重大な課題に気づきました。しかし、ただ「問題です」と言うだけでは誰も説得できません。そこで社内が一番尊敬する先輩に相談してアドバイスを得て、自ら実験をしたり関連部署に依頼をしたりしてデータを集め、具体的な課題点を明確にし、改善提案を組み立てていきました。通常業務の合間を縫って行っていたため大変でしたが、「これをきっかけにリコー製品がさらに良くなるかもしれない」とイメージし、自分の意思で行動していく過程は本当に楽しかったですね。また現在開発を進めている機種では、お客様との接点を持つサービス部門から指摘された技術的な課題をクリアするため、率先してプロジェクトを立ち上げ、化学系のチームと協業して、今まさに解決に向けて取り組んでいます。市場の期待に応える製品を生み出さねばならないというプレッシャーはありますが、それ

を超えるやりがいを感じています。

若手社員も発言しやすく、自主的に行動できる環境なんですね。その経験からどんなことを学びましたか？

市場のニーズを知ることの重要性です。求められていることが分からなければ、課題に気付くこともありません。特に私が携わっている製品は商業印刷などに使用されるため、お客様の要求は非常にシビア。だからこそ、技術的な課題をクリアしお客様に喜んでいただける嬉しそうですね。

そして自ら行動しなければ、成長も顧客満足も得られないということも学びました。課題が大きければ大きいほど、すぐには実現できません。しかしそこで諦めるのではなく、まずは一歩踏み出すことが未来の技術発展につながります。現状を変えていくためには、周囲に働きかける姿勢も大切。必要性がちゃんと伝われば、協力してくれる人が増えていきます。

女性が働く環境について、特徴的な風土や取り組みがありますか？

結婚や出産を経て、働き続けている女性技術者は多いですね。女性の育児支援制度は100%利用されていますし、仕事と育児を両立しながら活躍している女性管理職もいます。

女性技術者同士のネットワーキング活動も盛んです。私も先日、管理職の先輩と若手女性技術者をつなぐランチ会を企画しました。そこでは2人のお子さんがいる管理職の女性をゲストに招き、ざっくば

らんにお話を聞きました。「家事の分担はこうしている」「時短勤務の中でパフォーマンスを発揮する工夫」など、ロールモデルとなる先輩たちのリアルな話を聞くと、とても心強い気持ちになりますね。また、ネットワーキング活動の内容やその目的・感想をレポートにまとめ、社内に情報発信も行っています。

ライブイベントを経て、キャリアを形成できる土壌があるんですね。

女性に限らず、リコーという会社の中で働く人たちが、仕事と生活とのバランスを取りながらキャリアを築ける環境があると感じます。今は女性にスポーツが当たっていますが、こうしたライブイベントに合わせた働き方の変化は、女性に限った問題ではありません。男性社員も育児やご家族の介護などで一時的に仕事に割ける時間が制限されることがあるかもしれませんよね。そんな時に、これまで女性が短時間勤務制度を活用してキャリアを形成してきた事例や、その時に組織としてどのように対応してきたかといったノウハウは、非常に役立つと思います。こうした色々な働き方やキャリアの事例を共有するためにも、今後は男性も対象にネットワーキング活動を広げていきたいと思っています。

最後に、理系女子学生に向けたメッセージをお願いします。

就職活動中だからこそ、できることには全部チャレンジした方がいいと思います。「この分野が気にな

る」と思えばその分野の説明会などに行けばいいし、「この人に話を聞きたい」と思えば会いに行けばいいんです。それこそ、会社の心臓部である研究所を見学して働いている方々の話を聞くことも、学生ならではの特権。そこで得たものは、きっと大きな財産になるはずですよ。

私自身、就職活動で人生が大きく変わったと感じています。並行して取り組んでいた学生団体の活動の中でも色々な人に会って話を聞き、様々な経験をしたことで、幅広い視野でものごとを考えられるようになりました。ですから、ちょっとでも気になることは試してみるといいし、そんな理系女子学生がもっと増えていったらいいなと思います。

PROFILE

伊藤 若菜 (いとう・わかな)

株式会社リコー
画像エンジン開発本部
プラットフォーム開発センター
PF第2開発室

東京理科大学大学院
基礎工学研究科
電子応用工学専攻 修了

技術者の父が楽しそうに働く姿に影響を受けたことから理系の道へ。「小さなものに沢山の技術を込める」世界に魅力を感じ、大学では大量の情報伝達ができる半導体を研究テーマに選択する。2009年4月、リコー入社。入社後は一貫して印刷会社などプロ向けプリンターの画像エンジンの設計開発に関わっている。

